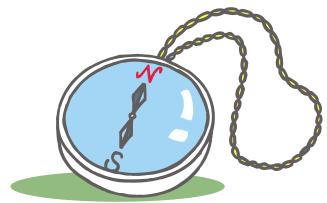


羅針盤



第 15 号

令和6年9月30日(月)

◆ 連帯感を通じて築きあげる「絆」とは

いよいよ明々後日の10月3日(木)に、第78回体育大会が開催される予定となっています。体育大会の目的の一つに、「体育大会への取り組みを通じて、学級や学年間の交流を深め、城陽中学校の生徒としての理解や協力、連帯感を育成する」とあります。50m走や100m走、200m走などの個人競技もあれば、男女混合リレーや4×100mリレー、学年種目などの団体(複数人)での競技もあります。自分が出場する競技だけでなく、学級の仲間が出場している競技を一生懸命に応援して、その結果に一喜一憂する。このことこそが、体育大会を取り組むうえでの大事な一場面であり、つまりは「連帯感」、そして、そのことが「達成感」へと変わっていくものであるべきはずだと思います。そして、体育大会などの学校行事は、結果を得るために力を注いだその「過程」が何よりも大事なはずです。その「過程」で、人は大きく成長するものだからです。どの学級も「優勝」を目指して懸命に努力し取り組む姿が、自然と見ている人たちにも大きな感動を与えることにつながっていくものです。決して口先だけではなく、「勝ちたいと思う気持ち」を行動で示していくことが、結果に関わることなく、得るものを大きく昇華することとなるはずです。それが、行事を通じて得ることのできる「連帯感」であり、「達成感」というものです。仲間のために懸命に汗を流し、仲間の頑張りに感動し、仲間の手助けに感謝することが、深い「絆」へと繋がっていくものです。その仲間とのより良い関係性を高めていくためには、何よりも「仲間を信じること」が大切なこととなるでしょう。「仲間を信じる」、それは、日頃から自分自身が正しいと考えていることを正しく伝えることができているかといったことに左右されることかもしれません。口では簡単に「仲間を信じる」と言うことはできますが、その真意は如何なものでしょう。こんなことを言ってしまって、嫌われないだろうか、あるいは、何か言われるのではないか、といったような不安な気持ちを乗り越えなければ、本当の意味での信頼できる仲間とはなり得ないのではないかでしょうか。言いづらいことだからこそ相手のことを考えて言ってくれる、その真意をくみ取れる心がなければ難しいことでしょう。お互いに理解しあう気持ちを持つことが何よりも大切です。お互いに勝利を目指しているからこそ、「自分の思いを仲間に伝えることができた」といったその経験が何よりも大切なこととなるはずです。パリ・オリンピックの体操男子団体総合で日本は金メダルを勝ち取ることができましたが、最後の演技者となったエースの橋本大輝選手には、考えが及ばないほどのプレッシャーがかかっていたはずです。それでも最後の最後に、最高のパフォーマンスを出し切ることができたのは、「皆の思いを背負って戦う」という強い決意を基にした信頼

関係で、結びついていたからこそではないでしょうか。5人で築きあげてきた信頼の輪が深く大きな「絆」として表現された結果であったはずです。生徒の皆さんにも、体育大会という学校行事を通じて、お互いの信頼関係を高め、連帯することを通じて、感動すること、感謝することに気づき、そのことが「絆」といったものをつくりあげていくことを忘れることなく、より一層逞しく成長してくれることを願ってやみません。一人ひとりが全力を出し切って、素晴らしい体育大会を共につくりあげていきましょう。

